

第2部 グループセッション

<大規模集客施設における災害対応の最前線>

「成田国際空港における COVID-19 対応の現状と課題」

松本 健二 (大規模集客施設分科会 副会長 / 成田国際空港株式会社 空港運用部門
総合安全推進部 運用計画グループ マネージャー)

田中 一成 (厚生労働省 成田空港検疫所 所長 / 医学博士)



成田国際空港株式会社空港運用部門総合安全推進部運用計画グループマネージャーの松本健二氏（大規模集客施設分科会副会長）と厚生労働省成田空港検疫所の田中一成所長（医学博士）は、「成田国際空港における COVID-19 対応の現状と課題」と題し、新型コロナウイルス感染症の発生以来、取り巻く環境の一変と過去に例を見ない利用者減少に直面する成田国際空港の検疫体制について報告しました。

松本氏は、成田空港の現在について「日本の空の玄関口として関係者が一丸となって対応している」と述べ、特に現場での水際作戦に奮闘する成田空港検疫所の田中所長から、空港利用者へのお願いを含む情報発信が行われることを紹介し、COVID-19 感染拡大防止に向けて注目を促しました。

続いて登壇した成田空港検疫所長の田中氏は、COVID-19 に対する水際対策として成田空港で現在実施されている強化検疫の説明に先立ち、通常の検疫業務の内容や感染症そのものに関する情報提供を行いました。

田中氏は、日本における道祖神の写真やヨーロッパで黒死病（ペスト）が襲来したときに描かれた絵を紹介し、「病気の中には、人の流れに沿って人のコミュニティに入ってくるものがある」と人々が昔から経験則的に知っていたこと、そして「そのようなものに来てほしくないということで対策を取ったのが検疫の始まり」と説明しました。

また、検疫を表す quarantine が、イタリア語の「40」という意味で、「様子を見るために40日間沖止めをしていたというのが検疫の始まり」と付言しました。一方で、感染症には、どんなに検査精度が上がっても、ある時期までは感染が分からない「ウインドウ期（すり抜け）」があることも指摘。それによって今回の COVID-19 への対応が「非常に煩雑になっている」と述べました。

続いて、田中氏は、通常行われる検疫業務について解説しました。基本的には例外なく入国者に検疫を受けてもらい、国際保健規則（IHR）に沿った対応をしていること、今回の COVID-19 への対応についても日本だけが突出しているわけではなく、全世界が一定の理解の下に協調して行っているものと説明しました。

事例として挙げたアフリカでのエボラ出血熱発生への対応では、「一定の地域から来られた方、発熱など一定の臨床所見を示している方について、問診や申し出を受けて検査を実施」する一方、「きちんと申告していただかないと見逃してしまうことがある」とも指摘。そのため、流行地域に社員を出張させている企業への説明会を行い、検疫への協力を要請したことも振り返りました。

続いて、田中氏は、成田空港の構造を示す航空写真を用いて現在の検疫体制を解説しました。従来は計8カ所で行うところを、新型コロナへの対応では「検疫機関の人手が足りないので、できるだけ集約化することで乗り切ってきた」と述べ、「空港の構造上やむを得ない形で第2ターミナルで1カ所、第1ターミナルで2カ所の3カ所」に分散して行っており、「分散させると検疫の力が相当落ちるため、当初は相当苦労した」との実感も語りました。

航空機到着からの乗客の流れでは、高い感染のあるレベル3地域からの入国者に対して抗原検査を行うほか、レベル3、レベル2のいずれの地域からの入国者についても、国内での連絡先を一人一人確認し、担当の保健所に提供していると説明。本来待機する場所ではない入国エリアでの検疫とあって、動線が複雑にならざるを得ない状況ながら、各社の協力によって待機施設が確保されたこと、その中できちんと検体検査を行い、待ち時間に誰がどこに座っていたかを逐一記録に残し、万一陽性だった場合はその場所を消毒していることなどを報告しました。

田中氏は、通常と異なる検疫手続きによって入国者側が混乱している状況に言及し、それに対して、検疫所側としても「1人当たりにかかる時間を秒単位で計測しながら短縮できるように」努めていると述べました。また、検疫を受ける人

の中に全く準備をしていない人がおり、ブースをふさいでしまうことがあるため、「関係者の方には入国の際に必要な情報を準備していただき、どうしても一定の時間がかかるので、余裕を持って計画を立てていただきたい」と協力を求めました。

田中氏は最後に、一番大切なこととして「渡航する場合にはもう一度その必要性について考えていただきたい」と述べ、海外渡航中に亡くなる人のうち7割が疾患で亡くなっていることから、「入念に準備し、健康管理には注意していただきたい」と強調しました。

